

シルバー 人材センター会報

社団法人
流山市
シルバー人材センター
事務所
流山市東深井989
電話
0471-55-3669

一歩一歩を大切に

流山市福祉部長 柏木謙介

日本列島は連日燦々たる猛暑続きですが、シルバー人材センターの皆様、毎日のご活躍ご苦労様です。

先場所の成績は余り振いませんでしたが、本市の十太夫に住居のある隣獣見関には、二匹の愛犬が居て、一匹には全勝、もう一匹には八勝という名前がつけてあるのだそうです。

全勝なら申し分なし、全勝でなくとも八勝(勝ち越し)を確保しておきたい、という心意気なのでしょう。

全勝を願うのは人間誰しも同じですが、無理な高望みをして、その度に失望落胆してはよろしくありません。

気力・体力に応じて、八勝を積み重ねる努力をする方がずっと合理的ではないでしょうか。

皆様の仕事も同じだ、と思いません。手を取り合い協力し合って、八勝位を目標に一歩一歩を大切に踏み出して下さる様にお願いをしたいと思います。

酷暑の折柄、ご自愛を切に祈り上げます。

会報発行について

会長 後藤正一

流山市シルバー人材センター会報第三号発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

我がセンターは事業団創立以来五年目に入りました。この間、行政側は勿論市民及び各事業所等より、温きご指導とご援助を頂いておりますことに對し、厚くお礼を申し上げます。又会員各位におかれましては、センターの趣旨にご賛同下され、献身的にお仕事に精励され、地域社会のため又自らの生きがいと健康維持のため、積極的に活躍下され市民の方々より好感をもつて迎へられておりますことは、誠に同慶に存じます。

さて、シルバー人材センターは皆さんご存じの事と存じますが、高齢者労働能力活用事業として高齢者社会に対する最も重要にして又時期に適した施策として、労働省が指導育成している、補助団体であります。

この団体の設立目的は、次の通りであります。

目的

高齢者労働能力活用事業(以下「事業」という。)は、定年退職後等において雇用関係でない何らかの就業を通じて自己の労働能力を活用し、それらによって追加的な収入を得るとともに、自らの生きがいの充実や社会参加を希望する高齢者に対して、地域社会に密着した補助的、短期的な仕事を組織的に把握し、提供することにより、高齢者の就業機会の増大と福祉の増進を図るとともに、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。

このセンターは、急激に増加する高齢化社会に夢と希望を与え、生きがいと活気ある高齢化社会を作る核として、信頼される立派なセンターに育成して行こうではありませんか。

については、全市民及び各事業所等への周知徹底を図り、会員募集と就労開拓等に努力すると共に、行政側のご指導ご援助を賜りながら、全市民の方々のご理解とご支援を得ると共に、会員自らも、た

ゆまぬ努力を重ねて行くようではありませんか。
 末筆ながら、会員各位の健康を祈念し、併せてセンターの益々の発展を願うものであります。

偶 感

事務局長 吉田良男

アメリカの前大統領カーターは、「高齢者は経験と知恵の宝庫だ、大切にしよう」といわれました。人が年輪を重ねることは、知恵と経験を重ねることで、知恵とは実生活に役立ち、実生活を方向づけ地域社会の水先案内といえましょう。高齢者の貴重な経験と知恵が、次の世代に伝えられないとすると大変な損失です。核家族が都会だけだけでなく地方へと広がりがつつある現在、次代を担う人達も、「古きを尋ねて新しきを知る」ことが、必要ではないでしょうか。



無限の幸福

鈴木政信



* 健康の幸福
 三度の食事を欠かさず、暴飲暴食をやめて腹八分を守る。くよくよせず、何時も朗らかに、姿勢正しく、足の運動も怠らず、一日最低三十種以上の食物をとり、薬に頼らない。

注意することは知っているだけでは駄目、実践してはじめて注意力のある人といえるでしょう。

転ばない。事故にあわない。病気になるらない。

* 働く幸福

やる仕事は山ほどある。でも私たちは高齢者だから無理は禁物、一日六時間を限度としたい。

* 友だちをもつ幸福

私たちは、社会の一人で単独では生活できません。「お早うございます」「ご苦労様」「暑いですね」と笑顔で交わす言葉、これが

友情であり、愛情でもある。愛は生かす力であり一切の成長と平和と幸福は愛より生まれる。

* 社会奉仕の幸福

流山市にも高齢者の社会参加活動の一つに、「シルバー人材センター」が誕生し早くも五年目を迎えました。会長さんを初め、会員はそれぞれ自分の技能と経験を社会に役立てて自分の活動とおして存在価値を確かめ、生きがいを探り続けています。若い人に身を求めて手本を示し、信頼されてこそ明るい社会が築かれると信じてやみません。

郷土愛と高齢者の在り方

伊藤 茂

昔、支那において支配指導者は愚民多くこれ等を生業につかせようと資金を与え、生活復帰を図った。ところが彼等は、金のある間これに頼って暮し、何等働こうとしなかった。

温情ある善政も元の惰民に終ったという史実を読んだことがある。何故これを前提にしたか、それは後段の対比参考にしたからである。

日本社会構造の中にも、支那と同様に依存性が非常に強く残って「民には困らしむべし、知らしむべからず」の思想も今日なお残り続けられているからである。

今日、老人福祉法は私どもにとって極めて有難く、戦前に比べれば非常に恵まれていると思う。

それぞれ人によって、余生の在方は千差万別である。戦中戦後の永い間、身心をすりへらし生き抜いてきたのだから、余生は「独り吾道を行く」の生き方もあろう。

言いたいことは、戦い破れても大和民族は現存している。戦後の日本は、永いこと続いた封建制度の生活より脱皮し「基本的人権の尊重、社会連帯性を身につけ、経験や技術を活かして社会参加を進んでやるべきだと思えます。

我が家の快適な暮らしは、社会環境の浄化こそ大きく作用し、また関連がある。

人から与えられたものは有難く受け、力あるものは郷土愛のため大いに奉仕してもらいたい。



私の希望

三瓶 茂

入会以来三年、これ以上錆付かないよう植木部門の講習、見学、指示作業など夫々に汗を流した喜びを思い出しています。

まず、活動の第一歩は、せつせとセンターに足を運ぶことでしようが、私のように市の最南端に住む者には容易なことではない。そこで次の様な点を希望します。

一、会報を数多く発行

予算の範囲内で、ザラ紙、ガリパン刷でも結構、活動の実態を会員に知らせる。

希望でも、苦情でもよいではないか。

二、役員活動

役員各位が真面目に努力されていることや、理事会の内容、求職のための活動や新会員勧誘の様子などを会報に。

三、編集部の活動について

取材活動をもっと活発にやって欲しい。インタビュ、コラム、エッセイ等足を運んで。

四、役員の拡充について

運営は今のままでよいだろうか、活動の拡大を図るために役員の拡

充をしたらどうでしょう。

五、業種別懇談会

顔合せは総会位で、同じ作業仲間の話し合いは殆ど無に等しい。

講演会でも参加者は一部だけで座談会のスケジュールはあっても事務局の指示とか、質問等で終わっている。年に一〜二回でもよいから集りよい会場で、みんな話しかけたい。年々企画して欲しい。

気楽は何より薬

新井竹男

杜甫は、「人生七十古来稀れなり」と云った。平均寿命が、四十年とか、五十年の時代は、確かに長生きの部類であったのだ。

現在の日本における六十五才以上の高齢者は、人口の九%を占め

二十一世紀初めには、十五%になると予測されている。したがって

青壮年に対する比率が、増加の傾向にあり、いわゆる高齢化社会に

推移する状態になった。「齢」、古稀に手ごとく昨今ともなれば

この先何年生きられるか判らないにしろ、種々考えさせられるものがある。

まず第一に、これからの生活に

対する不安である。

「入るをはかって、出るを制す。」

とは財政の鉄則であって、国、地方公共団体は勿論のこと、一家庭においても僅かの所得にしろ、それに応じた生計を、営まざるを得ないことは論をまたない。

行革審の土光敏夫会長は、「個人は質素に、社会は豊かに」とすべく、自から実践しているのである。

ましてや一市民としては、つつましい生活にこそ、内面的豊かさをもたらす安らぎが、あるのではなからうか。

第二には、いかにして健康を保つのかである。

裏をかえせば「病にかからないよう注意すること」で、昔から一病息災と云われ、持病の一つ位ある人は、常に保健に留意し、長命を保つゆえんでもあろう。最近の医療の進歩とともに、予防医学の発達もあるが、だんだん老化するのに伴う権病が心配である。

第三には、男女を問わず配偶者の死別によっての孤独である。

自己に関係ないとはいえ、特に身寄りのない一人暮らしの老人、あるいは、寝たきりの老人の場合、寂寥たる孤独は、ほんとうに人生

の悲哀を感じることであろう。

以上のことは、誰しも同じ意見で悲しいことである。これらの解決は個人では解決がむづかしいことであるが、財政上制約され容易なことではない。

そこで思い出すのが、堀口大学の言葉。「暮しは分が大事です。気楽は、何より薬、そねむ心は、自分以外のものには傷つけぬ。」とあるが、分相應に気楽に暮すことが何よりの薬である。

私の生き甲斐

染谷栄治郎

敗戦により戦線から復員した一時期、敗残兵として社会から白い眼で見られ自暴自棄の時があったが、若い青壮年時代には、誰でも希望をたくさんもっていた。

職場で成績をあげて、人の上に立ちたい。

家庭では、子供を一人前に育てあげ社会に送り出し、広い庭つきの家を持ちたい等々であった。

これらの若い頃の希望が、十分の一位しか達せられなかったが、どうやら子供も結婚して孫ができ

なんとかやっている様だ。
住いも、猫の額い程ではあるが
幸い庭のある家をもつことが出来
た。

今迄精一杯頑張ってやってきた
のだから、これでよいのだ。自己
満足して五十七年十二月職場を引
退したのは六十二才の時であった。

それから約一年半ぐらいになにせ
ず、下手なザル碁で毎日碁会所通
いをして遊んでしまった。ところが
が、だんだんと心の空虚さを感じ
る様になり、そしてこの空虚さは
日に日につのるばかりであった。

希望のない生活に耐えられなく
なってきました。「これが人生」
と云うものか。これから先何年生
きるかわからないが、何と淋しい
味気ない人生なのか、こんな筈で
はなかったと独りつぶやく日々が
続いた。

眠る事の出来ない或る夜、ふと
考えた。自分のこれからの生き甲
斐とは、何なんだろう。あれこれ
考えたが答は見いだせなかった。
明け方の四時頃だったろうか、
「人間希望がなければ一日も生き
る事が出来ない」という話を或る
先生から聞いた事を想い出した。
先生はその話の中で、「希望と云

う光を見失った時は、自分の心の
羅針盤が狂っているのだから、その
羅針盤の方向を修正することだ。」
とも云った。そうだ俺は心の羅針
盤が狂っているのだ。働かなくな
いのも、生きてゆける。だから働か
ないのだという心、これが違ってい
るのだ。神は私たちに健康な体を
与えてくれたのに、働かないで遊
んでいることは、神の意志に反す
る事で罪悪であると気づいた。

働かなくてはいけない、明日か
ら仕事を探そうと心に誓った。す
ると暫くして心のやすらぎを覚え
深い眠りにつく事ができた。

次の日、早速市役所に行き尋ね
たところ、人材センターがあるこ
とを教えられ、その足で同センタ
ーを訪問し会員申込みの手続きを
した。
数週間した或る日、人材センタ
ーより連絡があり水道局で楽しく
働くことが出来た。局の職員も良
い方々で大変喜んでいただいた。
それから現在は、昨年六月より
人材センターの派遣補助員として
民間会社に、毎月何日かの仕事に
つき楽しく働らせていただいで
います。

会社の人たちも大変理解があり

慣れない仕事を親切に指導して
いただき、今では仕事に興味がわ
いてきて、働く喜びと人と人との心
のふれ合いもあり、本当に生きが
いをもって楽しく働かせていただ
いております。

今迄の自分は、生きるために働
き、金のために働くのだと思っ
ていた心の羅針盤の修正ができた。
人の生き甲斐とは、「命を与え
てくれた神に対し感謝の心をもっ
て努力することだ。」と思う様にな
りました。

高齢者におくる
私の願い(その一)

石塚 貴一

●感謝して 素食を楽しく
いただくこそ 無限の栄養に
なるものぞかし

●長寿は 青い野菜とカルシウム
少塩少糖 少車多歩

(老化は足腰から始まる)
●いつまでも 知ろう学ぼう
考えよう 初心貫け

●老害と 言葉悲しき 余生より
与生なりけり 奉仕の心
生涯創造

お知らせ

事務局新人事について

事務局長 吉田良男

(市派遣)

庶務 渡辺キミ子

庶務 中山百合子

業 務 河内正八

業 務 菊地敏夫

よろしくお願ひ申し上げます。

転出 教育委員会へ

退職 荒 耕輔

石田昌夫

加瀬豊春

ご苦勞様でした。

ご健勝をお祈り申し上げます。

編集後記

大変お待せいたしました。
第三号、ようやく出来あがりま
した。

ご投稿いただきました方々に、
厚くお礼申し上げます。

編集委員長

鈴木政信